

第2次「豊後大野っ子」読書活動推進計画

平成30年度～平成34年度



平成30年11月

豊後大野市教育委員会

はじめに

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであり、社会全体で、積極的にそのための環境の整備を推進していくことは極めて重要です。

豊後大野市では、平成30年度から教育活動全般で行う「キャリア教育」を重点に位置付け、子どもたちの主体的な自己実現を目指しています。読書は生きる力のよりどころです。本において、めくる音、読んだ記憶や想像も、子どもたちの感性を刺激し、それぞれの価値観を養い、人間形成にとってとても大切なものです。子どもたちが本から得た豊かな情感を地域や社会で分かち合い、育んだ夢や希望が叶うことを期待しています。

豊後大野市まちづくり市民会議において4年前から、読書活動の拠点となる図書館の整備について議論がされました。この結果を踏まえて、平成28年度から10年間を計画期間とする「豊後大野市 第2次総合計画」において、「図書館を整備すること」を掲げました。具体的には、幼児から高齢者にいたるまで、親しみやすく利用しやすい施設として、地域情報や学習スペースの提供といった様々な図書館機能の整備と充実を推進するため、新図書館の建設について検討を行い、併せて学びの拠点となるような各種施設の集約化に取り組むこととしました。現状の計画として、新図書館は平成33年1月開館、新資料館は平成33年7月に開館（併設）予定で準備を進めているところです。新図書館・資料館に、幼児から高齢者までが集い、世代を超えて交流し、学び、つながっていく、そんな夢と希望が膨らんでいます。

こうした中、子どもの読書活動が一層推進されるよう、これまでの取り組みの現状と課題を踏まえ、平成30年度からおおむね5年間の総合的な取り組みとして、本計画を策定しました。子どもが自ら進んで読書に親しみ、読書習慣を身に付けていくとともに、読書活動を通じて、生涯にわたって自発的に学ぼうとする習慣を身に付けられるよう、関係機関や団体等と連携・協力し、積極的に取り組んでまいります。

最後に、本計画の策定にあたり、「子ども読書活動推進計画策定委員」の方々をはじめ、市民の皆様から貴重なご意見、ご提言をいただきましたことに対し、深く感謝いたします。

平成30年11月

豊後大野市教育委員会教育長 下田 博

第1章 「豊後大野っ子」読書活動推進計画の策定にあたって

1 計画の趣旨

人は多くの人との出会いや体験により、人として成長していきます。人との出会いや体験と同様に本との出会いは大変貴重なものです。

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるように、積極的にそのための環境の整備を推進する必要があります。

幼児期や、学校においては、「読み聞かせ」体験をはじめとして、自分で読みたい本を探し、進んで読書を行う態度を養い、読書習慣を身につけることができるよう働きかけることが大切です。また、子どもの発達段階に応じて、興味や関心を持ったり感動したりする本などを身近に整え、読書の楽しさを感じるきっかけをつくり、その読書活動を広げ深めることが生涯にわたる読書活動につながります。さらに、子どもが読書を通じ、様々な知識や教養を得るとともに人とのつながりを深めたり、感謝の気持ちを育むことができたりする地域社会をつくることを目的に本計画を策定します。

2 計画の目標と基本方針

本市では、第1次計画に基づき、子どもの読書をめぐる環境の整備を子どもの成長に応じて各機関が連携して推進してきました。そのような中、現代の情報化社会の著しい変化などを踏まえ、子どもが生涯にわたって本に親しむ習慣づくりを目標に新たに第2次計画を策定し、次の方針のもと読書活動を推進します。

(1) 計画の目標

「豊後大野っ子」が生涯にわたって本に親しむ習慣づくり

子どもの発達段階に応じた本との関わり方を周りの大人が十分考慮した上で働きかけを行い、多くの本や人とのふれあいの中で読書の楽しさについて気づかせ、子どもの自主的な読書活動を促進し、生涯にわたる読書活動につなげます。

(2) 計画の基本方針

計画の目標である「生涯にわたって本に親しむ習慣づくり」を目指し、次の基本方針のもとそれぞれの発達段階や環境に応じた読書活動の推進を行います。

□基本方針 1

子どもの読書活動の大切さや重要性についての啓発活動の推進

子どもと保護者や周囲の大人へ、読書活動の大切さや重要性について周知啓発を行い、地域全体で読書活動の推進を図ります。

□基本方針 2

子どもの成長に応じて関係機関が連携した読書活動の推進

子どもの読書活動に関わる関係機関や団体、家庭等が、それぞれの役割を認識するとともに、関係機関同士が連携して情報交換や協働事業を行う中で、子どもの自主的な読書活動が楽しくより効果的にすすめられるよう推進します。

3 計画の位置づけ

「子どもの読書活動推進に関する法律（平成13年法律第154号）」に基づき、市における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画として策定します。

また、平成28年度策定の「第3次豊後大野市総合計画」における市の将来像「人も自然もシアワセなまち」や「第3次豊後大野市総合教育計画」における基本理念「ふるさとを愛し、地域とともにシアワセな未来を拓く、たくましく、心豊かな豊後大野の人づくり」を目指した取り組みとして読書活動を推進するものとしています。

4 計画の期間

本計画の期間は、平成30年度から平成34年度までの5年間とし、周期的な見直しを行います。

第2章 「豊後大野っ子」の読書活動の現状と課題

1 市内の子どもの読書活動の現状

平成30年6月小学校2年生、5年生、中学校2年生を対象に読書活動に関する調査をした結果、「あなたは本を読むのが好きですか」の問いに対して、好きまたはどちらかというが好きと回答した人は、83.3%で、5年前の調査時（以下、「前回調査時」と記述）の77.8%を上回る結果となり、大半の子どもたちが本を読むことを好んでいます。

「先月1ヶ月間に、本を何冊読みましたか」の問いに対して、0冊は3.7%（前回調査時5.5%）4冊以上読んだ子どもは79.2%（前回調査時65%）で読書活動の実践も年々できてきています。

「先月1ヶ月間に、まちの図書館（※）に何回行きましたか」の問いに対して、0回と回答した子どもが48.1%（前回調査時58.2%）と、半数近くの子どものまちの図書館を利用していませんが、徐々に改善が見られる状況です。

「1週間に、学校の図書館に何回行きましたか」の問いに対して、0回が9.5%（前回調査時9.6%）、2、3回が58.4%（前回調査時63%）、毎日が31.4%（前回調査時19%）と多くの子どもたちが学校図書館を利用しています。

平成30年6月公立の幼稚園・子ども園の年長者の保護者、小学校2年生・5年生・中学校2年生の保護者に同じく調査をした結果、「お子さんにとって読書活動は重要だと思いますか」の問いに対して、とても重要または重要と回答した人は98.4%。また、「お子さんに読み聞かせをしたことがありますか」の問いに対して、あると回答した人は90.8%と、保護者の方々の読書活動に対する認識の高さがうかがえます。

（※）まちの図書館…市図書館、移動図書館、公民館の図書室のこと

2 学校の読書活動における現状と課題

（1）小学校について

小学校では、児童が読書を楽しみ読書の幅を広げていくために、適切な支援と環境整備を行っています。

①具体的な取り組み

○朝読書の他に年に数回「読書月間」を設定し、読書に親しむ活動を行っています。「読書月間」では、児童が日頃読むことの少ない9分類以外の本にも親しむ

工夫をしています。

○取り組みのめあてを設定したり、がんばりカードを使用したりしながら意欲的に本を読ませるための工夫をしています。

○教科の学習と関連させた活動を行っています。国語科の並行読書、総合的な学習や社会科と関連させて行う調べ学習などを、学校司書の支援や協力を得ながら進めています。

○市内全小学校で、小学生新聞を購入し授業や宿題等で活用しています。校内に掲示したり、お昼の放送で記事を紹介したりするなど、学校独自の活用も見られます。

○地域や保護者の方々と連携した取り組みとして、ボランティアによる読み聞かせをしています。また、教職員による読み聞かせ（※）や児童同士による読み聞かせ（ペア読書）を実施している学校もあります。

○図書館では、推薦図書や新着図書の紹介の他に、季節や行事に合わせたコーナーを設置したり、毎月「図書館だより」を発行したりしながら興味や関心を高めています。

○市図書館や県立図書館と連携し、資料の充実を図っています。

（※）読み聞かせ・・・「読み聞かせ」「読み語り」2通りの表現がありますが、ここでは、小学校で多く使われている「読み聞かせ」と表記しています。

②課題

◇並行読書や調べ学習を行うために使う蔵書の質や量に課題があります。質・量ともに整えられた蔵書の中から、児童一人ひとりが本を選んで読むことができる環境が望ましいです。

◇読書活動のための時間の確保に課題があります。特に高学年は、授業の中でじっくりと読書をする時間を確保しにくい実態があります。

◇学校司書が、2校を兼務している学校があります。児童の読書活動を充実させるためには、全校配置が望ましいです。

（2）中学校について

中学校では、多様な情報を活用し、生徒の見方・考え方の深化を目指した読書活動ができるように支援、環境整備を行っています。

①具体的な取り組み

○図書館活用教育全体計画および年間指導計画を作成しています。

○朝自習、放課後の時間を活用した20分間程度の一斉読書をしています。

○小学校に出向き、朝自習や授業の中で生徒が読み聞かせをしています。

○各教科、総合的な学習等で課題解決のための調べ学習など図書館活用授業を実施しています。

○生徒会専門部と連携して、読書記録カードの作成、本の紹介ポップ作り、ビブリオバトル、生徒の実態意識調査などを行っています。

○学校司書と連携し、本の購入希望調査、関連教材や調べ学習に必要な資料収集の依頼をしています。

②課題

◇調べ学習に必要な資料の充実

◇発達段階に応じた本を選択できる生徒の育成

◇学校司書が小中兼務の学校は、必要な資料収集等の相談時間が確保できません。

図書館活動年間指導計画は、平成29年度までに小中学校全校で作成済みです。

3 学校図書館における現状と課題

学校図書館（学校司書部会）では、児童生徒が興味を持ち幅広い分野の本を手にとってくれるような選書、読書活動の工夫、館内での過ごし方の指導など、図書館内の環境整備を行っています。

前回策定数値との比較

1人平均貸出冊数	平成27年度	平成29年度
小学校（1人あたり平均貸出数）	125.4冊（目標値+18.4冊）	156.9冊（目標値+40.9冊）
中学校（1人あたり平均貸出数）	29冊（目標値-0.2冊）	25.3冊（目標値-6.3冊）

（1）具体的な取り組み

○並行読書、調べ学習の補助…他の学校図書館、県立・市図書館からの貸借を利用し資料を集めています。

○読み聞かせ…教職員、地域ボランティア、児童生徒の委員会活動、上級生など様々な読み聞かせ活動が定期的に行われています。

○家庭読書…保護者からの読み聞かせを行ってもらう学校もあります。

○読書活動…朝読書、ペア読書、読み聞かせ、ブックバイキング

○読書月間・週間の設定…図書館クイズ・ビンゴ、アニメシオンの実施、図書委員会による集会（紹介劇、大型本読み聞かせ、クイズ、おすすめ本の紹介など）

○「図書館DAY」を設け、「図書館へ行く」ことを推進しています。

○新聞活用…授業への取り入れ スクラップブックを作成し「新聞の読み方」を鍛えるようしています。

- 貸出冊数制限の増加（週末、学校司書が不在の日は2冊など）
- 市図書館の団体貸出、移動図書館を利用しています。
- 「図書館だより」を定期発行しています。
- 館内での過ごし方の指導など、図書館内の環境整備を行っています。

（2）課題

◇嗜好の固定化…同じ本を何度も読んだり、同じシリーズを読み続けたり、読書傾向が固定化しつつあります。幅広いジャンルの本に興味を持ってもらい、読書の幅を広げたいです。

◇読書の質の向上…特に小学校から中学校へ進学し、読書の難易度が上がり「活字アレルギー」「読書嫌い」になる生徒が多いです。また、貸出冊数にこだわって読まずに返す児童生徒もおり、「読まない」という自由を認めつつ、読書の楽しさを知ってもらう工夫が必要です。

◇図書館への来館の工夫、読書の推進…読書に関心のない児童生徒は、まず図書館へ来ません。どのように図書館へ誘うか、読書が嫌いな児童生徒へどのように本を進めていくかの工夫を行います。

◇公共図書館…蔵書数（専門書）が少なく、授業で使う資料など数の確保に苦心しています。各学校図書館、県立・市図書館との連携をよりスムーズに行えるようにします。

◇国語科・教職員・地域との連携…読書の時間が確保しづらくなっています。授業枠の5～10分でも図書館に行き本の貸出をするなど、連携し時間の確保に尽力します。

◇図書館マナーの徹底…本の扱いや過ごし方など、公共性の指導を行います。

◇環境整備…意欲関心を高めるための配架、ポップなど、環境整備の工夫

4 こども園・保育園における現状と課題

こども園・保育園では、読み聞かせを通して、子どもの感性を豊かにし、想像力を育てる取り組みをしています。

（1）具体的な取り組み

○毎日の保育の中での読み聞かせや、月に一度のボランティアによる読み聞かせをしています。

○月に一度巡回の、市の移動図書館「にじいろ号」を利用し家庭での読み聞かせを推進し、絵本を通して家族のふれあいの時間を持てるようにしています。

（2）課題

◇乳幼児期の子どもへの読み聞かせの機会の提供

◇家庭での読み聞かせの時間の確保

5 幼稚園における現状と課題

幼稚園では、子どもが「絵本が大好き！」と感じられるよう、絵本に親しむ活動を行っています。

(1) 具体的な取り組み

○季節や活動、子どもの興味・関心にあった絵本をいつでも手に取って読めるような、絵本に親しむ環境づくりの工夫をしています。

○発達段階や季節・活動にあった絵本や紙芝居を選択し、日々の保育の中で読み聞かせに取り組んでいます。また、保護者やボランティアによる読み聞かせもあります。

(2) 課題

◇読み聞かせを家庭でも実践してもらえるように、引き続き幼児期の読み聞かせの大切さを保護者に伝えていく必要があります。

6 保健・福祉事業における現状と課題

保健・福祉事業においては、乳幼児期に本に触れるきっかけづくりとして、以下の取り組みを行っています。

(1) 具体的な取り組み

○こんにちは赤ちゃん事業（乳児家庭全戸訪問事業）

赤ちゃん訪問の際に、ブックスタート事業（主管課：子育て支援課）による絵本のプレゼントを行っています。同時に市図書館作成の「こんにちは、図書館です！」「赤ちゃんといっしょに絵本を」をお渡しし、図書館利用についてお知らせ、赤ちゃん向け絵本、子育てを応援する本を紹介しています。

○すくすくひろば（乳児学級）

すくすくひろばでは、偶数月に読み聞かせボランティアによる赤ちゃんへの読み聞かせを行っています。読み聞かせの効果や読み聞かせをするときのポイント、子どもの年齢に合わせた絵本の選び方などについてもお話してもらいます。

○幼児健診

1歳6か月児健診・3歳6か月児健診では、健診の待合スペースで読み聞かせボランティアによる絵本や紙芝居の読み聞かせを行っています。

(2) 課題

◇継続した読み聞かせボランティアの確保が必要となっています。

7 児童館における現状と課題

児童館では、見やすく手の届きやすい場所に本棚を配置し、本を気軽に手にして読めるようにしています。

(1) 具体的な取り組み

- ソファを置いて、読書しやすい環境づくりに努めています。
- 毎月、市図書館から乳幼児・小学生向けの図書を借り入れ、幅広い年齢の子どもたちに対応できるようにしています。
- 市図書館からのお知らせや図書・読み聞かせ等の情報があった場合は館内の掲示スペースにて紹介し、情報発信に努めています。
- 各児童館のニーズや地域の特徴に合わせた内容で図書コーナーの充実や読み聞かせなどを行っています。

(2) 課題

- ◇さらなる蔵書の充実と読書スペースの環境整備を図る必要があります。

8 市図書館における現状と課題

図書館では、7万2千冊中、児童向けは2万7千冊程度所蔵しています。乳幼児から小学生は家族との利用が多く、遠方に住む子どもは週末によく利用しています。中学生以上は学校帰りや週末、試験前に学習の場として利用する姿が見られます。

また、移動図書館では図書館から離れた地域の子どもたちへのサービスを行い、市内一円の読書支援に努めています。

(1) 具体的な取り組み

- 資料の選定・配架
絵本は、赤ちゃん向け、昔話絵本、行事の絵本など、児童書は、幼年童話、恐いおはなし、のりものの本、古典文学など、子どもたちが選びやすいようにコーナーを設置しています。
- 移動図書館
移動図書館では、幼稚園、保育園、こども園、小学校へ巡回し、市内の子どもたちへの貸出を行っています。授業で利用する本や、子どもたちの趣味に応じた本へのリクエストを多数受けています。
- 行事・講座の開催
図書館行事として、おはなし会や工作・科学教室、ワークショップ等を行っています。その際は行事の関連本なども展示し、図書館利用につなげるよう工夫しています。
- 施設見学、職場体験の受け入れ
主に小学生の施設見学、中高校生の職場体験を受け入れ、図書館施設や仕事の内

容について説明をしたり、体験してもらっています。

○団体貸出、調べ学習等への支援

団体貸出として園や学校へ貸出を行い、団体文庫としての利用や、児童生徒や教職員からの個別のリクエストにも対応しています。またレファレンスも受け付けています。

○情報発信・広報活動

市報内に「図書館だより」を掲載、また、児童向けの新刊案内、中高校生向けの図書案内等を作成しています。ホームページやケーブルテレビを活用しての広報活動も行っています。

(2) 課題

◇旧三重町時代に建設した図書館のため、市の図書館としては手狭で、資料も十分ではない現状です。現在の図書館で改善をしながら、新図書館で生かしていけるよう取り組んでいく必要があります。

9 公民館図書室における現状と課題

中央公民館を除く6つの各町の公民館に図書室があります。図書室には、社会教育や生涯学習に関する資料をはじめ、児童書から一般書などを配備し、市民の学習意欲に応えられるように努めています。

課題としては、

◇合併前の規模を引き継いでいますので、公民館によって図書室の広さや蔵書冊数に差異があり、利用環境にも差が生じているところです。

公民館図書室の蔵書冊数と面積

	清川	緒方	朝地	大野	千歳	犬飼
蔵書冊数【冊】	3,951	16,877	3,146	3,691	5,702	2,894
面積【㎡】	24.75	79.00	38.40	119.03	107.20	57.60

平成30年4月1日現在 緒方は歴史民俗資料館内、他は公民館内。

10 地域・家庭における現状と課題

地域では、各学校、施設、図書館等でボランティアによる読み聞かせ活動や絵本に親しむ活動等が活発に行われています。

各家庭においても、アンケート結果にありますように、読み聞かせをしたり、本を購入したり、本を読んだら褒めたり、図書館に連れて行ったり、本の話をしたりと様々な取り組みが行われています。今後も、豊後大野市PTA連合会等と連携を図りながら全体的な取り組みを進めていく必要があります。

第3章 「豊後大野っ子」の読書活動の今後の取り組み

1 小学校・・・「主体的に読書活動を行う環境の整備」

国語科と読書活動とを関連させた学習や、その他の教科における調べ学習の取り組みなど、現在の取り組みを継続し、子どもたちが主体的に読書活動を行う環境を整えていきます。

- 図書館活用教育を継続し推進します。
- 各小学校における取り組みの現状を維持します。

2 中学校・・・「自主的、自発的な学習活動や読書活動の充実」

現状の取り組み活動を継続しながら、以下の点について改善できるように努めます。

- 学校司書との資料や関連教材のための打ち合わせを計画的に行います。
- 生徒が多様な知識を得られたり、読書の幅を広げたりできるような本の選定を行います。
- 学校図書館等を計画的に活用し、生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実させます。

3 学校図書館・・・「楽しめる読書活動の創意工夫」

現状の活動を継続しつつ、より活動を強化していきます。資料収集や環境整備だけでなく、全学年、家族が楽しめる読書活動の創意工夫に努めます。

今回目標値提案

1人平均貸出冊数	平成32年度	平成34年度
小学校（1人あたり平均貸出数）	135.0冊	140.0冊
中学校（1人あたり平均貸出数）	28冊	30冊

提案理由：小学校は平成27年度、29年度目標値を大きく上回っていますが、学校によって差が激しい状況です。

中学校は目標値を下回っており、現状回復に努めます。

- 特に図書館にこない児童生徒への働きかけが重要です。
 - 図書の実・調べ学習の資料の確保…少ない予算からより良質な本を読んでもらえるようにしたいです。読書に関心の薄い児童生徒の底上げをはかるため、幅広いジャンルの選書に努めます。
- また、調べ学習等に使う分類の本は公共図書館から貸借すると学校間での調整が困難になってしまうため、自校の蔵書を増やしたいです。情報の古いもの（5年ほどで変わってしまう）をこまめに廃棄し、新しい情報を取り入れるべく図書の充実に

努めます。

○各学校・公共図書館との連携・協力…団体貸出や移動図書館などを用い、不足している資料の確保に努めます。

○児童生徒に関心を持ってもらえる環境づくり…どの書架にどんな図書があるのか明確でない図書館は「学習・情報センター」としての機能を果たせないため、「使える図書館」としての環境整備に努めます。

○図書館から児童生徒（保護者）への情報発信…図書館だより等を用い、図書館内での情報を児童生徒、教職員、保護者へ広め活用してもらうよう努めます。

4 こども園・保育園・・・「絵本の読み聞かせの充実」

0歳児から5歳児まで幅広く過ごす保育園では、各年齢に応じての絵本の読み聞かせを通して、子どもからの発信（感動の思いや表情、言葉など素直な気持ち）を受け止めていきたいです。絵本は子どもの育ちに欠かせないものです。

○これからも絵本の読み聞かせを継続し、いろいろな絵本に親しめるようにします。

○読み聞かせ等、家庭での読書活動の大切さを理解してもらうための働きかけを行います。

○ボランティアによる読み聞かせを継続します。

5 幼稚園・・・「読書への興味・関心をより湧かせる工夫」

テレビやスマホゲーム等では培われない、絵本だからこそ広がるイメージや表現、言葉の美しさへの気づきを大切にし、読書への興味・関心がより湧くよう家庭とともに取り組んでいきます。

○週1回程度絵本の貸し出しを行い、家庭での読み聞かせを働きかけます。

○市図書館との連携により、読み聞かせの絵本の充実や絵本コーナーの充実を図ります。

6 保健・福祉事業・・・「読み聞かせによる感性豊かな子育て支援」

乳児期から幼児期は本と親しみ始める大切な時期です。読み聞かせにより子どもは感性が豊かになり、言葉も習得していきます。また、保護者は読み聞かせにより、子どもと触れあいの時間を持つことができます。保護者と子どもがともに読書に興味をわくように、以下の取り組みを行っていきます。

○赤ちゃん訪問では、ブックスタート事業（主管課：子育て支援課）による絵本のプレゼントの継続、市図書館と連携して読み聞かせの効果を保護者へ伝えていきます。併せて図書館利用や家族向けの事業についても周知を図ります。

○すくすくひろば・幼児健診では、絵本の読み聞かせの継続、そのためのボランティアの確保を市図書館やボランティアグループと連携して行います。

7 児童館・・・「年齢に合わせた読書環境の整備」

児童館の特色として、幅広い年齢の利用者がいるので、年齢に合わせた環境を整え、読書を身近に感じられるように興味・関心をもてる取り組みを行っていきます。

○現在、市図書館からの借り入れの際、職員の判断のみで借りる図書を決めているので、子どもたちの好きな本や読んでみたい本などの意見をいれて、子どもが興味をもって読書できるようにします。

○職員や地域の方による読み聞かせの取り組みを続けます。

○今後も市図書館やその他の図書・読み聞かせ等の情報収集を心掛け、児童館でも利用者に向けて情報発信に努めます。

8 市図書館・・・「豊後大野市の読書・情報拠点としての役割の充実」

新図書館に向けて、子どもたちが親しみやすく、使いやすい図書館をめざして取り組んでいきます。

○資料の選定・配架

乳幼児、小学生、中高校生、それぞれの対象に応じた資料の選定を行い、子どもが求める資料、また、大人がすすめたい資料をバランスよく収集します。必要に応じた資料を見つけ出せるよう、より分かりやすいコーナーづくり、配架を考えていきます。

○園や学校等との連携

園や学校、公民館等と連携し、団体貸出として必要な資料の提供、またレファレンス（調査・相談）の充実を図ります。

○行事・講座の開催

本に親しむため、子どもたちの興味・関心に応じた行事を計画していきます。また、読み聞かせ等の活動をしている人を対象とした講座を行います。

○情報発信・広報活動

ホームページをより充実させ、利用者がアクセスしやすい仕組みを考えます。市報やケーブルテレビも活用し、情報がより広く市民に伝わるよう努めます。

○職員の研修

全ての図書館職員が読書支援に適切に関われるよう、館内研修を積極的に行い、館外研修にも参加します。

1人当たり年間貸出冊数

平成27年度実績	平成29年度実績	平成32年度目標	平成34年度目標
2.7冊	3冊	4冊	5冊

9 公民館図書室・・・「各町の読書・情報拠点としての役割の充実」

公民館図書室のサービスについては、現在進めています支所及び公民館の整備と併せ、さらなる充実を図ります。

- 幼児・児童向けの読書スペースや学習コーナーの充実を図ります。
- 「貸出だけではなく、滞在できる図書室」を標榜し、市民みなさんが気軽に立ち寄れる図書室を目指します。
- 市図書館の本を検索できる蔵書検索パソコンを配置し、連携を図ります。
- 無線LANスポットを整備し、パソコンやスマートフォンなどを持ち込み、簡単かつ自由に情報が入手できる環境を整えます。

10 地域・家庭・・・「読書活動を通じた子育て支援」

豊後大野っ子は、地域で育てるという意識のもと、読み聞かせ等による学校への支援活動を継続します。

- 家庭教育や子育て支援に関する講演や講座等の機会に、読書活動の重要性、読み聞かせのノウハウなどについて紹介するとともに、豊後大野市PTA連合会等と連携し、家庭において日常的な取り組みがなされるように促します。
- 放課後チャレンジ教室や放課後児童クラブなどでの読み聞かせ活動が一層充実されるよう働きかけます。
- 乳幼児期からの読み聞かせの必要性や読書活動の重要性などについて広報紙やホームページ等を通じて積極的に紹介します。